

近代日本の社会史・女性史の俯瞰と研究のための基本資料。待望の覆刻。

# 婦人年鑑



## 女性史研究に「幅」と「厚味」をもたらす復刻

一番ヶ瀬康子

(日本女子大学教授)

国際婦人年以來、女性史が各地で盛んになってきた。大きなうねりになってその領域を充実拡大しつ、ある今日、新たに「婦人年鑑」が復刻されることの意味はきわめて大きい。

とくに今回復刻された「婦人年鑑」は、一部のエリートあるいは底辺の婦人層のこのみを追求しがちであった従来の女性史に対し、いわばあたりまえの「婦人」の、しかも日常的な生活にかゝる側面に関しても、その状態を知るに役立つさまざまな記録を収録している。この年鑑を読むことによって、従来の女性史は、さらに幅と厚味をもつことができる。しかも、戦時中および敗戦後のわかりにくい日本の歴史を知るにも、役立つ時期のものをおくんでいる。

ことに日本人の半数以上をしめる女性の動向、生活の在り方は、女性史だけの問題にとまらなない。それは、現代史にとっても大きな意味をもつはずである。ひろく、この復刻が活用されることを望んでやまない。

■ A 5判・上製函入  
第I期/全7巻 ■ 本体130,000円+税  
第II期/全6巻+附録 ■ 本体95,000円+税  
全13巻+附録合計 ■ 本体225,000円+税

日本図書センター

### 『婦人年鑑』の復刻

▼現在「年鑑」とよばれるものはおよそ二〇〇〇余を数え、あらゆる場所での日常的な利用を見えています。『婦人年鑑』にかぎっていえば、他の年鑑類にくらべて極めて遅く、大正九年版を嚆矢とします。以降今日に至るまで断続的な刊行をみるにすぎません。

▼一般的にいえば、年鑑は文字通り一年間の諸記録(資料・統計・解説・名簿等)であり便覧であります。『婦人年鑑』は当然のことながら、婦人に関する諸資料を纏めたものということになるでしょう。

▼しかし、それだけでは「婦人年鑑」の一面をしか見ないこととなります。便宜的に数値に置き換えられた表からも、生きた社会や女性の現実を拾うこと、時には一碗の麦飯や一汁の膳にまで思いをめぐらすことも可能かもしれません。

▼先人の遺した「婦人年鑑」の編纂・発行の労を多とし、ここにそのすべてを集成して江湖におくることがよるこびといたします。ぜひ共家庭や職場で、あるいは社会史・女性史研究の資として広く利用されることを念ってやみません。



## 年輪を問いなおす糧

佐多稲子  
(作家)

私たちが生きて来た過去は、暦の年と自分の年齢とが重なり合ったもので、ああもう今年は何年になったのだとか、あの時、私は何歳だったから、あれからも何年になるのだなとか、分ち難いもののようにおもわれます。

今度覆刻される大正や昭和の中頃までの『婦人年鑑』は、その目次を見ただけでも、あらゆる面の統計や名簿や資料がとり上げられていて、大変な仕事を残しておいてくれたことという思いになります。

記録や項目の一つ一つは、いずれも何らかのかたちで私たちの生活と関わりをもっており、広く考えば、国家とか社会とかの一年単位の見取図でもあって、それは個人的感慨や思い出とは別の次元として存在しているようにも見えます。こうした『年鑑』のもっているさまざまな側面は、たとえば女性史を学ぶ方にはここから資料面での端緒を拾うだろうし、年代的推移を読むことも可能かもしれません。

私はこれらの年鑑を、あらためて私なりの年輪を問いなおすための糧として繕いてみたいとおもいます。

### 『婦人年鑑』によせて

\*撮影：◎千葉浩志

### 近代婦人史のポイント

- \*個人としての女性
- \*幼児としての女性
- \*学童としての女性
- \*学徒としての女性
- \*職業人としての女性
- \*家庭における女性
- \*国家・社会の一員としての女性および、
- \*女性の衣食住から修学・労働・育児・保健
- \*衛生・実生活から文化・スポーツ・趣味
- についての諸資料、戦争・平和、あるいは婦人運動・婦人団体にいたるまでの記録を網羅してそれぞれの時代を俯瞰する。

### 附・婦人関係新聞雑誌年表

書誌研究会編  
 明治以降発行された①婦人対象の新聞雑誌  
 ②婦人のみよって編集・発行された新聞雑誌等を新たに精査し、書誌的正確さを期して検索研究の資としておくる待望の書。  
 (第II期配本)

※『婦人年鑑』によせて「はいずれも刊行当時のものです。」

## \*婦人問題・婦人関係図書

## マイクロフィルム版

### 愛国・国防婦人運動資料集

千野陽一監修 全九巻・別冊一 総頁数三、八〇〇頁  
 A5判写真帖はB4判・B6判上製 上製 本体二二六、〇〇〇円  
 戦前・戦時下におけるいわゆる官製の4大婦人団体(愛国婦人会、大日本連合婦人会、大日本国防婦人会、大日本婦人会)の活動記録と資料。今日入手が困難で、これら4団体の動向を相互に関連させながら総体的に把握できる、第一級の原資料を可能な限り復刻し、収録した。

大正期婦人問題文献集成  
 国立国会図書館編・所蔵  
 全二一四巻 本体三、六三八、〇〇〇円

## 雑誌「女性」

鶴見俊輔監修  
 津金澤聡廣・山本洋・小山静子解説  
 全四八巻 総頁数二四、三〇〇頁 A5判 上製 本体六〇〇、〇〇〇円  
 大正・昭和初期のモダニズム最盛期に、プラトン社より刊行された婦人文芸雑誌『女性』72冊の復刻。雑誌『女性』は、欧米の動きをいち早く紹介するとともに、新しい女の生きかたを描き、変わりつつあった時代の状況を明かにしている。幻の雑誌といわれて、全体を目にするのは極めて困難であった。

明治期女子教育文献集成  
 国立国会図書館所蔵  
 全七五巻 揃本体一、一八〇、〇〇〇円

明治期婦人問題文献集成  
 国立国会図書館所蔵  
 全七二巻 揃本体一、〇六〇、〇〇〇円

明治期婦人伝記文献集成  
 国立国会図書館編・所蔵  
 全五五巻 揃本体八七〇、〇〇〇円

## 近代婦人問題名著選集《続編》

中島邦監修  
 全一〇巻 総頁数四、〇〇〇頁 A5判 上製 本体四八、〇〇〇円  
 婦人論ばかりでなく、婦人問題をさまざまな角度からとりあげた著作や、近代の婦人運動に足跡を残した婦人の著書など入手しにくい文献を復刻。

近代日本婦人雑誌集成  
 国立国会図書館所蔵  
 全一〇四巻 揃本体一、六六四、〇〇〇円

\*総合出版目録呈

株式会社 日本図書センター

〒112-0012 東京都文京区大塚3-8-2 電話 03-3947-9387 FAX 03-3947-1774

特約店名

特約店名入力欄

# 婦人年鑑／目次(抄)

大正期・昭和戦前・戦中・戦後期

## 婦人年鑑 大正九年版

- 〔論説〕 下田歌子・鳩山春子・三輪田真佐子・棚橋  
絢子・嘉悦孝子・跡見李子・吉岡弥生  
□ 官廷・大日本帝国皇室・宮家・華族・宮家御歴  
代・皇城・三御所・十離宮・十四御用邸・帝室御  
料地御料牧場・御歴代女帝、他  
□ 土地・日本帝国の領土・経緯度表・内外各港間  
航路哩程表・全国府県面積・公園・大河・高山・  
原野・湖沼・世界の面積、その他  
□ 婦人団体・婦人社交界の鳥瞰図・婦人ハイカラ誌  
・日本赤十字篤志看護婦人会・愛国婦人会・陸海  
軍将校婦人会・基督教婦人矯風会・クリンテント  
ン慈愛館・日本基督教女子青年会・救世軍婦人ホ  
ーム・女学校同窓連合会・桜楓会・花の日の会・処  
女会中央部・東京育成園・大日本婦人慈善会・日  
本女医会・釈放女囚保護会・仏教婦人法話会・女  
子奉公人教養所・婦人興信所、他36団体  
□ 婦人の社会的活動(日誌)  
□ 教育機関・東京女子高等師範学校・フレール会  
・日本女子大学校・女子英学塾・東京盲学校・東  
京音楽学校・跡見女学校、他71校  
□ 女流教育家・官立高女教員生徒数一覧・公立高  
等女学校・全国女子師範学校・幼稚園・関秀作家  
・関秀画家・関秀書家、その他  
□ 女子教育界日誌  
□ 婦人の職業▽家庭の職業  
□ 社会・大正以降没せる名流婦人・各種博覧会展  
覧会・日本婦人人口動静・植民地における日本婦  
人・全国の女囚・結婚媒介他  
▽結婚式場▽統計眼に映じた現代百名婦▽流行界  
□ 資料・婦人に関する格言及俚諺・歴史上の日本  
名婦・歴代女流歌人・歴代女流俳人・世界の名婦  
・世界婦人の風俗  
□ 関秀音楽家・琴曲界・琴曲演芸団体・歌沢・謡曲  
仕舞・女流茶客・茶道・生花・盆景・女義太夫界  
・女優・歌劇  
□ 家庭・婦人年中行事・一年間の料理・婦人衛生  
・食し得べき植物・食物分析表・家庭園芸・家庭  
に於ける法律・民法・諸届他便覧

## 婦人年鑑 昭和十二年版

- 婦人界日誌(大正8年・大正9年)  
□ 皇室・大日本帝国皇室・皇族・王族及公族・臣  
籍降下、その他  
□ 婦人会・選挙公正運動・母性保護運動・親子心中  
・婦人参政権、その他3項目  
□ 婦人会展望・昭和10年11月11年10月  
□ 財政・一般会計歳入歳出年次比較、その他一般  
會計諸税等一覧  
□ 女子教育・世界義務教育年限・各国高等教育状況  
・女子高師生徒数・中等学校に於ける女教員・官  
私立大学女子正科生調査・女子の官私立大学入学  
卒業に関する調査・女教員の産前産後休養、他  
▽婦人博士録  
□ 社会・九年中婚姻離婚出生死産死亡・夫婦関係  
継続期間別離婚・身分別出生数・職業別人口・公  
益質屋・女子社会事業家・父母の年齢と出生割合  
・親子心中に関する調査・芸妓娼妓酌婦に関する  
調査・東北六県の女子身売防止に関する就職資金  
・救護法等▽保健衛生・小学児童体格一覧・病類  
別死亡率他諸死亡率表ほか▽昭和年間における日  
本婦人身体表・女子年齢別体力表・女子職業別体  
力表・日本人年齢別体力表・農婦年齢別体力表等  
□ 児童問題・児童虐待防止法実施状況・年別工場少  
年労働者数・全国学校給食児童数・東京府下にお  
ける不良児の保護、他2項目  
□ 職業界・年別一般職業紹介取扱成績▽東京市職業  
紹介所の女子紹介状況・職業別求人求職者数・年  
齢別諸調査・教育程度・女子専門学校卒業者の就  
職・職業婦人初任給調・医師免状所有女子数・東  
京府下の医師男女比較・同歯科医男女比較・婦人  
薬剤師・府下産婆開業年次調査・全国女子労働者数  
▽保護司と方面委員・教職員・婦人保護司・女子  
方面委員・東京市・八王子市方面委員氏名・職業  
婦人に関する調査・他2項目▽希望職業別希望給  
料額調・証券・百貨店・官庁・航空・印刷他  
□ スポーツ・第十一回オリンピック記録・昭和十年

## 婦人年報 婦人界の動向 昭和十九年版

- I 一般情勢  
1 一般政治経済情勢 2 婦人界一般情勢  
□ II 婦人に関する戦時諸政策とその進展  
1 生産政策と婦人の活動  
(1) 労働員と婦人①労働統計と婦人②労働員  
計画と婦人③婦人に対する保護法規の緩和(2)工  
場に於ける生産活動④女子労働の増大と質的転  
換⑤労働状態⑥女子勤労要員制度(3)鉱山に於け  
る生産活動(4)農村に於ける生産活動⑦支那事変  
後に於ける農村の実状⑧皇国農村確立のための  
各種対策⑨農村婦人の家事労働とその軽減⑩  
漁村・農村に於ける婦人の活動⑪むすび(5)内職  
授産の増加(6)女子勤労報国隊の活動(7)事務及び  
文化職域に於ける婦人の活動⑫はしがき⑬智能  
的なもの⑭技術的のもの⑮肉体的なもの  
2 人口政策と婦人(細目省略)  
(1) 人口政策確立要綱と婦人(2) 出生増加と結婚の

## 婦人年鑑 昭和十九年版

- III 戦争生活と婦人  
1 戦争生活に対する政府の要請  
2 食生活と婦人  
(1) 主食について(2) 生鮮食料品について(3) 調味料  
その他  
3 衣生活と婦人  
(1) 衣料切符制の実施(2) 婦人標準服の制定  
4 住生活と婦人  
(1) 住宅問題(2) 家庭燃料、電気  
5 防空と婦人  
6 生活の協同化  
(1) 共同献立配給(2) 共同炊事(3) その他  
7 生活の刷新  
8 生活文化の問題  
9 貯蓄と婦人  
□ IV 国民運動と婦人運動  
1 国民運動に於ける婦人運動  
(1) 大政翼賛運動と婦人(以下細目省略)(2) 町内  
会部落会隣組と婦人(3) 大日本婦人会の結成と其  
活動(4) 大日本青少年団と女子青年(5) 大日本産業  
報国会と女子労働者(6) 商業報国会と婦人(7) 農業  
報国運動と婦人(8) 各種文化団体と婦人(9) 各種婦  
人団体の活動  
2 日本婦人の対外活動  
(1) 大東亜共栄圏への婦人の協力(2) 国際修交婦人  
団体とその活動  
□ V 海外婦人の活動  
1 大東亜共栄圏の婦人活動  
(1) 満洲国の婦人(2) 中華民国(3) 泰国(4) フィリッピ  
ン(5) 東印度(6) ビルマ(7) 仏印(8) 印度  
2 諸国婦人の活動  
(1) 独逸(2) 伊太利(3) 芬蘭(4) ソ連(5) イギリス(6) 濠洲  
附録 I 婦人界日誌  
附録 II 婦人団体及び婦人関係団体名簿

## 近代 婦人雑誌一覽(略)

□明治期  
女学新誌(明治17・6・18・9) 啓蒙雑誌。編者近藤賢三、修正  
社発行。儒教・キリスト教をモラルの基調にした教養誌。  
女学雑誌(明治18・7・37・2) 全506冊。女性啓蒙誌。編者・近藤  
賢三・巖本善治(明治30より主宰)。  
以良都女(明治20・7・24・6) 婦人・文芸雑誌。編者新保磐次他  
のち山田美妙。成美社発行。文言一致体を普及した。  
日本の女学(明治20・8・22・12) 婦人雑誌。編者発行・博文館。  
家政・修身・教育・文学など、女子の一般教養誌。  
閩秀新誌(明治23・5・16) 全4冊。啓蒙雑誌。編者発行波木井才  
九郎。閩秀社発行。女子教育の学問啓蒙を排し徳智育を尊重。  
女学(明治24・8・42・3) 編者西沢之介。国光社発行。のち  
中川良平編集。女子新聞社発行。良妻賢母型女性の徳育が主眼。  
家庭雑誌(明治25・9・15・31・8・15) 全199冊。家庭婦人雑誌。  
主筆徳富蘇峰、編集塚越芳太郎、金子佐平。家庭雑誌社発行。社  
会の改革、健全な家庭を標榜。小説には佳作が多い。  
真錦(明治25・11・40・8) 全178冊。婦女子教育啓蒙雑誌。編者発  
行中井木菟麻呂、のち山田豊彦、石川喜三郎、尚綱社発行。ニコ  
ライ女子神学校が母胎。意欲的に海外文学の翻訳紹介を行なう。  
評論(明治26・4・27・10) 思想文芸雑誌。編者巖本善治、女学雜  
誌社発行。赤表「女学雑誌」(明治25・6)の改題誌。のちさらに  
『女学雑誌』40号と合併(明治27・10)。本誌は巖本の教育・啓蒙  
活動の一環ではあるがいわゆる婦人雑誌ではない。  
女学世界(明治24・1・大正14・6) 全406冊。教育総合雑誌。編  
集松原五郎、博文館発行。古典講義等はやや高度な内容。  
婦人界(明治35・7・37・12) 婦人雑誌。編者発行木本勝太郎(明  
治42・5・大正6・8) 編者水沢信之助、発行人赤見臨介。金港  
堂発行。前期は婦人の自覚、後期は文学に重点をおいた。  
家庭雑誌(明治36・4・40・8) 啓蒙雑誌。編者堺利彦(由分社、  
のち西村清山(金井社)、再び堺に替り深尾韶が協力、さらに第五  
巻第一号より大杉榮・深尾(家庭雑誌社)、第五巻第九号より深尾  
の単独編集となつていく。社会主義的傾向を持った家庭雑誌。  
女子文壇(明治38・1・大正2・8) 文芸雑誌。編者発行野口竹  
次郎、女子文壇社発行。編者はのち河井静名にかわり(第三巻第  
1号・明治40年1月)執筆陣、投稿欄ともに充実させた。  
ムラサキ(明治38・1・44・1) 文芸雑誌。続新聞社発行。文壇  
作家の作品の他に上司小刺蓮の投稿作品を掲載した。  
婦人画報(明治38・7) 婦人雑誌。編者木田独歩、近事画報社  
発行。のち『東洋婦人画報』と改題(明40・8) 東京社の発行。  
23らに「婦人画報」にもどつて雑誌として戦後は画報社(昭  
3・3)の発行。女性向けの画報誌として時代を画した。  
婦人世界(明治39・1・昭和8・5) 婦人雑誌。創刊時の編集発行  
人は増田義一、編集実務は高信峽水、実業之日本社発行。生活に  
即した実用記事の他に比較的水準の高い小説が掲載された。  
婦人之友(明治41・1) 婦人雑誌。羽仁吉一も子との「家庭之  
友」に付随して発行されていた「家庭女学講義」を改題、「家庭之  
友」を継承するかたちで同夫妻の家庭之友社から発行、今日に至  
る。  
婦女界(明治43・3・昭和27・10) 婦人雑誌。編者桑原定逸、のち  
都河龍、同文館、のち婦女界社発行。  
青鞜(明治44・9・大正5・2) 文芸雑誌。編者発行中野初子、の  
ち五巻一号より伊藤野枝に替つている。青鞜社発行。

淑女画報(明治45・4・大正12・9) 婦人雑誌。編者発行人松原若  
五郎、博文館発行。  
□大正期  
番紅花(サフラン) (大正3・3・8) 文芸雑誌。編者尾竹一枝(紅  
がき) 東雲堂書店発行。編者同人はもと尾竹がいた、「青鞜」の同人  
が多い。  
女の世界(大正4・5・10・8) 婦人雑誌。編者発行野依秀一・安  
成二郎、実行の世界社発行。  
婦人公論(大正5・1・昭和19・4・21・3) 雑誌の戦時統合で  
休刊(婦人総合雑誌。発行編集人麻田駒之助・主幹嶋中雄作、中  
央公論社発行。編集は高信峽水・伊藤茂雄・八十岡英治・山本英  
吉・蘆原敏信・三枝佐枝子・松村和夫等。  
新家庭(大正5・3・12・9) 家庭雑誌。玄文社発行。家庭(婦人)  
雑誌であるが、文芸作品や文学記事に多くの頁をさいている。  
ピアトリス(大正5・7・6・4) 文芸雑誌。編者発行山田たづ  
み。生田花世。ピアトリス社発行。寄稿も女性に限定した文芸誌。  
主婦の友(大正6・3) 婦人雑誌。石川武美創刊。誌名は、はじ  
め、「主婦の友」昭和29年1月より現表記にあらためる。発行所名  
も創刊当初は家政研究会、大正10年6月より主婦の友社、昭和28  
年、主婦の友社とあらためる。  
ザムボア(大正7・1・9) 結社雑誌。「朱梨」の継承誌。編者発行  
北原章子(名儀人)。紫烟草舎発行。ただし実質的には北原白秋が  
軸になっていた。なお同誌はいわゆる女性性による結社誌ではない  
が女性主宰の詩歌誌という点からここに掲げた。  
婦人倶楽部(大正9・10) 婦人雑誌。誌名は、はじめ「婦人くら  
ぶ」と表記。講談社発行。編者は太田桐夫・橋本求・新井兵吾・  
尾張真之助・茂木茂などが歴任。  
令女界(大正11・4・昭和25・9) 文芸雑誌。投書雑誌。編者竹原  
久之助。実質的には藤村耕一(白光)の編集による。「櫻の実」(研  
秀社)を母体として宝文館発行。  
処女地(大正11・4・12・1) 文芸・教養雑誌。編者主任福西(徳  
光)まつ子・同助手加藤(島崎)静子。ただし実質は島崎藤村の  
編集。発行は処女地社(藤村自宅)、上田屋書店発売。  
女性(大正11・5・昭和3・5) 婦人雑誌。文芸雑誌。編者今村繁  
三郎。発行所松坂寅之助、プラトン社発行。のち編者発行中山  
豊三にかわる。  
二人(大正13・7) 四号で廃刊。詩誌。林美美子・友谷静枝二  
人の同人誌で毎号八頁。  
婦人の国(大正14・5・15・5) 婦人雑誌。編者加藤健吉(筆名椿  
純一・内山茂樹)  
家の光(大正14・5) 家庭雑誌。産業組合中央会発行。発行所は  
その後中央農業会(昭和18年)、全国農業会家の光協会(同19年)。

### 女学雑誌

明治十八年七月二十日發行

東京若菜堂

